

ひょう  
瓢

## 湖 (水原町)

■環境：湖沼  
 ■対象：家族  
 ■期間：通年 10月中旬  
 ～3月上旬

新雪を頂く飯豊連峰・五頭連峰を望む湖は天然記念物に指定され、数千のハクチョウと数万のカモが越冬する。給餌に集まる水鳥たちを間近に観察できる。

## 〈4000羽のハクチョウが飛来する湖〉

新潟平野に広がる水田の稲刈りも終わり、朝晩が冷え込み始める10月上旬、コハクチョウがシベリアから渡ってきはじめる。次いでオオハクチョウが渡来し、合計4000羽以上（96年1月は6000羽を超えた）のハクチョウと数万羽のカモ類が瓢湖で越冬する。

## 〈冬のハクチョウの生活〉

瓢湖で越冬するハクチョウは、近年はほとんどコハクチョウで、真冬の多雪期を除くと毎朝日の出とともに5羽、6羽の家族単位で付近の水田へ採餌

(じ)に行き、稲刈り後の落ち穂や2番穂などを食べ、夕方再び湖に戻って休む。そのため日中の湖面には給餌に集まる少数のオオハクチョウがとどまるのみ。ハクチョウの大群や飛翔を観察するなら早朝が最



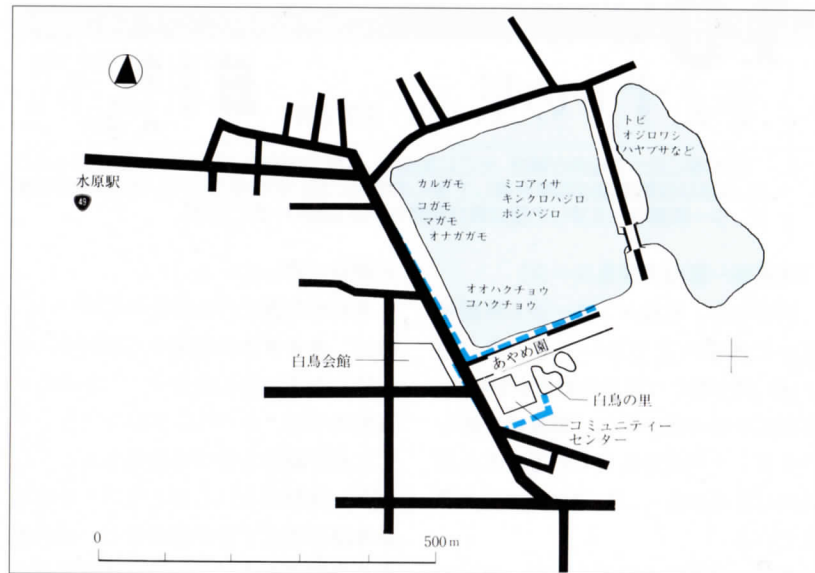
湖面に群れるハクチョウ

もよい。

## 〈湖面を埋める数万羽のカモ類〉

これまで十数種類のカモ類が観察されているが、中でもマガモとオナガガモが多い。特にオナガガモは餌(えさ)場まであふれている。その他ホシハジロ、キンクロハジロ、コガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモなどが多く、いずれも観察路すぐ近くの水面に集まっているので、それぞれの種類のオスとメスの違いなどをじっくり観察するのに適している。また写真撮影も容易に行える。

少数ながらミコアイサ、オカヨシガ



モ、アメリカヒドリなども毎年観察され、年によってはアメリカコハクチョウ、ハクガンなどの迷鳥も飛来し、瓢湖観察の大きな楽しみになっている。

湖岸に並ぶ桜の樹上には、カモを狙うオジロワシやオオタカなどのワシ・タカ類も観察できる。

## 〈静かなたたずまいを見せる夏の瓢湖〉

ハクチョウたちが北に帰り、ソメイヨシノが新緑に包まれると、湖は南から渡ってきたオオヨシキリやヨシゴイなど夏鳥たちの静かな繁殖地となる。湖面には魚を捕るカワセミヤサギ類が見られ、冬とは別の落ち着いた観察ができ魅力である。(岡田成弘)

## メモ

交通 JR水原駅下車徒歩5分、または新津駅よりタクシーで15分。車で新潟方面からは、磐越自動車道新津ICをおり15分。津川方面からは、安田ICをおり国道49号線で15分。  
 白鳥会館わきに大駐車場あり。

探鳥会 新潟県野鳥愛護会主催で毎年2月の第4日曜日に行われている。問い合わせ先：水原町役場商工観光課 ☎0250-62-2510

瓢湖水きん公園管理事務所 ☎0250-62-2690

瓢湖は昭和25年(1950年)吉川重三郎氏がエサ不足のハクチョウに餌(え)付けをはじめ、後に子息の繁男氏に引き継がれた。これらの活動により越冬するハクチョウが増加し、現在は町の職員が1日3回餌付けを行っている。「ハクチョウの里」では渡来するハクチョウの見分け方や初認日の記録、シベリアの繁殖生態のビデオが公開されている。